

# 令和元年度図書館事業実績評価

守谷中央図書館

令和3年2月

## 評価について

守谷市立図書館では、令和元年度から市直営による運営を再開しました。直営への移行に当たり、指定管理者により提供されたサービスを継続するとともに、利用者満足度の一層の向上を図るため、指定管理による平成30年度実績に対し、市直営による令和元年度の図書館実績評価を実施し、検証しました。

評価内容は、運営基本方針の実現に向けた活動計画の5項目における自己評価及び総括としました。

## 運営基本方針の実現に向けた活動計画

- 1 市民の求める図書や情報の収集、提供、保存
- 2 未来を担う子どもたちの読書活動の推進と、学習活動の支援
- 3 市民との協働により、市民が集い、学び、活躍できる場の整備
- 4 多様な利用者ニーズに応えるサービスの提供
- 5 快適で信頼できるサービスの提供

図書館事業実績評価

1 市民の求める図書や情報の収集, 提供, 保存

評価基準	H30年度実績	R1年度実績	前年比
図書資料数	429, 284冊	434, 115冊	↗
視聴覚資料数	18, 726点	18, 883点	↗
雑誌タイトル数	334タイトル	331タイトル	↘
新聞タイトル数	32紙	33紙	↗
蔵書冊数 (市民一人当たり)	6.4冊	6.4冊	→
資料回転率 (図書)	2.1回	2.2回	↗
地域・行政資料の受入冊数	199冊	234冊	↗
寄贈資料受入冊数	679冊	970冊	↗
地域資料等のデジタル化 (ADEAC作成件数)	3件	3件	→
宅配サービス等登録者数	3人	3人	→
宅配サービス等貸出点数	238点	274点	↗
外国語資料の受入冊数	57冊	34冊	↘
レファレンス受付件数	4, 361回	5, 940回	↗
県立図書館, 県内公共図書館との相互貸借数	2, 459冊	2, 356冊	↘
国立国会図書館, 他県立図書館等との相互貸借数	272冊	259冊	↘

自己評価

- ・視聴覚資料数及び雑誌・新聞タイトル数において, 大きな変化はありませんでした。図書においては収容力を超える蔵書数があり, 書庫の書棚を増やすことにより, 必要な資料の保管に努めました。このような状況下では, 資料の選定とともに除籍が重要であり, 職員間のチェック体制を構築し, 適正な除籍に努めました。
- ・地域・行政資料及び寄贈資料の受入冊数においては昨年を大きく上回りましたが, 外国語資料の受入冊数は下回りました。
- ・多文化サービスの一環として, 英語を母語とするALT経験者による英語のおはなし会を新規に開催しました。
- ・ADEAC (デジタルアーカイブ) は, 「郷土の歴史」「史郷守谷」「守谷のふるさとかるた」の3タイトルを追加し, 資料の充実を図りました。
- ・宅配サービスの登録者は前年度と変わりなく, 2週間隔で音訳資料等を宅配しました。

## 2 未来を担う子どもたちの読書活動の推進と、学習活動の支援

評価基準	H30年度実績	R1年度実績	前年比
読み聞かせや本に関する講座・講演会の実施	1回	1回	→
子ども向け行事開催数	14回	22回	↗
子ども向けの資料案内の作成数	15件	12件	↘
図書館職員（スタッフ）によるおはなし会の実施回数	16回	6回	↘
ボランティアによるおはなし会の実施回数	164回	151回	↘
学校への団体貸出冊数	4, 508冊	4, 947冊	↗
学校図書館（相互利用）への貸出冊数	191冊	189冊	↘
ブックトークの実施数	11回	25回	↗

### 自己評価

#### 【子どもの読書活動の推進】

・子ども読書まつりには、絵本作家の武田美穂氏の講演会をはじめ、ブックラリー、ボランティアの「ヴェルデ」によるワークショップ「こいのぼりをつくろう!」、 「ボランティアメイト」の協力を得た、「子どものための本の修理体験会」を開催しました。また、一年を通して、クリスマスや節分などの行事に合わせたおはなし会、育児コンシェルジュを指導者とした工作会、いきいき茨城ゆめ国体文化プログラム事業「いばらッキーとおはなし会」を実施するなど、図書館を利用する機会の少ない子どもたちに向けた新たな企画を実施し、図書館の利用促進を図りました。

・子ども向けの資料案内については、毎月1回小学校低・中・高学年を対象とした「図書館新聞」において、新刊図書の案内や図書館のお知らせ等を掲載しました。

・図書館職員（スタッフ）によるおはなし会は大幅に減少しましたが、子ども読書活動の推進に係る事務的業務や、ブックトークなどの学校図書館充実のための支援に振り替え、子ども向け行事の開催やブックトークの実施数の拡充を図りました。

#### 【中央図書館との連携による学校図書館の充実】

・学校図書館との連携は、直営への移行に伴う大きな柱とするものです。中央図書館に学校図書館担当司書職員及び統括学校司書を配置し、学校教育改革プランに基づく学校の取組に対し、市内の小・中学校、守谷市教育委員会指導室及び学校司書と連携を図りながら学校図書館充実のための支援を実施しました。団体貸出冊数は、前年度1, 777冊に対し令和元年度は2, 247冊となり、前年度の126.4%になりました。また、ブックトークの実施数は、前年度11回に対し令和元年度は25回と倍以上の結果となりました。

・新たに、各中学校がビブリオバトルを実施するための取組を実施し、学校司書とともに図書館もその支援に当たりました。

・令和元年度からは、学校図書館業務に関する所管が中央図書館に統一され、各機関が連携を図りながら学校教育改革プランに基づく取組を実施したことにより、実績を上げることができました。

3 市民との協働により、市民が集い、学び、活躍できる場の整備

評価基準	H30年度実績	R1年度実績	前年比
図書館ボランティア登録数	19団体	21団体	↗
ボランティアとの協働事業実施回数	9回	14回	↗
おはなしボランティア養成講座及び研修等の実施回数	3回	4回	↗
図書館ボランティア連絡会開催回数	2回	2回	→
一般向け講演会、講座等の実施回数	6回	5回	↘
展示会の開催回数	7回	9回	↗

自己評価

・図書館では、おはなし会、資料の音訳や本の修理等においてボランティアによるご協力をいただき、市民との協働による運営を継続しています。令和元年度は、「おはなし☆レインボー」と「おはなしくまさん」の2団体が新規に発足しました。「おはなし☆レインボー」は図書館経験者によるグループです。豊富な経験を生かし、児童クラブやひこうせんなどの出張おはなし会で活躍していただいています。また、「おはなしくまさん」は、図書館が主導し、守谷市役所男性職員に募集を行い、結成されたおはなしボランティアです。男性によるおはなし会が人気を博し、子どもとともに参加されるお父さんの数が増加しており、男性の育児参画にも貢献していただいています。

・ボランティアとの協働事業の実施は、平成30年度実施内容をすべて継続し、更に既存事業の拡充とともに新規事業の展開に努めました。新規事業の1つに「ようこそ守谷へ2019」の出演がありますが、図書館のPRとともに、おはなしボランティアによるおはなし会を実施しました。新たに守谷市民となられた皆様に、図書館をPRする良い機会となりました。また、図書館ボランティア「手話サークルふれあい」の協力により「やさしい手話講座」を新規に開催し、日頃の活動の成果を市民に還元していただくことができました。

・ボランティアの育成については、現おはなしボランティアへのアンケート結果を参考の上、外部講師を招いて育成講座を2回実施しました。また、新規おはなしボランティアを養成するため、4年ぶりにおはなしボランティア養成講座を開催しました。講座受講後の講座生による発表を3月に予定していましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大により中止となったため、今後のフォローアップが必要です。

・絵本を介した赤ちゃんとのふれあいを応援するブックスタート事業においても、ボランティアのご協力をいただいています。ボランティアのスキルアップのため、NPOブックスタートから講師を招き研修会を開催しました。

・一般向け講演会、講座等の実施及び展示会の合計では昨年を上回りました。残念ながら、新型コロナウイルス感染症の拡大により、3月に予定していた講座、展示、イベントにおいては合計5つが中止となりました。

4 多様な利用者ニーズに応えるサービスの提供

評価基準	H30年度実績	R1年度実績	前年比
開館日数	340日	345日	↗
新規登録者数	1,851人	1,666人	↘
来館者数	298,102人	298,043人	↘
貸出点数（全館）	985,254点	976,305点	↘
貸出利用者数	279,100人	283,540人	↗
市民一人当たり貸出数	14.5冊	14.2冊	↘
予約・リクエスト受付件数	213,054件	212,234件	↘
団体貸出数（学校以外）	3,917冊	4,358冊	↗
インターネット端末利用回数	408回	415回	↗
電子図書館利用数	1,461件	1,840件	↗
ナクソス・ミュージックライブラリーコンテンツ閲覧数	3,917回	4,358回	↗
育児コンシェルジュ利用数（利用項目合計）	799回	1,043回	↗
読書応援タイム（託児サービス）利用数	308人	368人	↗
書籍消毒機利用回数	10,355回	12,135回	↗

自己評価

・新規登録者数、貸出点数（全館）、予約・リクエスト受付件数などの利用に関する数値が前年度より減少しているのは、令和元年度の1年間、中央公民館図書室が休業していたことが大きな要因と考えられます（平成30年度中央公民館月平均利用者：1,418人 貸出数：6,290人）。

・団体貸出については、生涯学習課主催で月1回開催される放課後子ども総合プラン会議において、図書館の児童サービスについてPRしたことが効を奏し、前年度1,812冊に対し、令和元年度は、2,314冊となり、前年度の127.7%になりました。

・電子図書館の利用の増加については、サービス開始から2年が経過し、サービス自体が周知されたこともあり、毎月微増傾向にありました。新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、3月17日から電子申請による電子図書館利用IDの発行を開始しました。この影響もあって、3月のコンテンツ閲覧数が前年3月の198%、貸出数が272%になりました。

・書籍消毒機利用回数の増加においても、新型コロナウイルス感染症拡大の影響が大きく出ています。

・育児コンシェルジュサービスは、専門業者との委託契約により実施しており、図書館としての子育て支援の幅を広げています。昨年度までは、夏休み期間中はコンシェルジュによるサービスを休止していましたが、令和元年度からは通年の実施とし、利用者の利便性の向上に努めました。中央図書館1階の児童フロアには育児コンシェルジュによるコーナーがあり、毎月テーマを決めておすすめ本を配置したり、工作作品を展示したりしており、作品の作り方の説明書の配布は利用者から高い支持を得ています。また、男性によるおはなしボランティアの「おはなしくまさん」とともに、おはなし会の運営にも関わっていただいています。

5 快適で信頼できるサービスの提供

評価基準	H30年度実績	R1年度実績	前年比
常勤職員に占める有資格者数（司書）	61.9%	76.5%	↗
司書資格新規取得者数	1人	1人	→
研修への参加回数	24回	27回	↗
研修の受講者数	194人	115人	↘
図書館協議会開催数	4回	4回	→

自己評価

・常勤職員に占める有資格者数（司書）が前年度を上回りました。また、非常勤職員1名が新たに司書資格を取得することができました。

・接遇、著作権、ヤングアダルトサービスなどの研修をはじめ、係長が指導者となつてのブックトーク研修や、ブックフェアにおける資料の現物選定研修を実施し、職員のスキルアップに努めました。前年度と比較すると、受講者数の減少はありましたが、積極的に研修に参加し、学んだことの共有化を図るとともに、業務での実践に努めました。

・年4回の図書館協議会を開催し、随時事業実績の報告を行うとともに、委員の皆さんからご意見やアドバイスなどをいただきました。

・利用者の皆様から信頼を得るために、頂戴したご意見・ご提案に対しては、真摯に受け止め迅速な対応や回答に努めました。指定管理時の課題であった、利用者のマナー違反に対する対応については、誠意を持った説明とお願いを繰り返し実施しました。今後も、公共の場としての利用マナーをお願いしながら、利用者の皆様に快適にお使いいただける環境の整備に努めます。

総括

令和元年度は、中央公民館改修工事により同公民館図書室が1年間休室しました。また、新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策として、3月から段階的に図書館のサービスを縮小せざるを得ない状況でした。しかしながら、利用者、ボランティアの皆様のご協力を得ながら運営を実施し、利用数値、実施事業において平成30年度に劣らない実績をあげることができました。

今後の課題としては、図書館に関わる人の問題が考えられます。現在の正規職員は8名中7名が有資格者であり、その内5名が図書館勤務年数10年以上という恵まれた状況にあります。しかしながら、図書館運営の長期的な安定を図るためには計画的な司書職の採用が必要であると考えます。また、市民との協働の観点において、ボランティアの高齢化は重大な課題であり、現ボランティアの育成及び支援とともに、新たなボランティアの開拓が必要です。そのためにも、より多くの方に、イベントを始めとした様々な図書館の利用機会を提供することで、図書館に興味を持っていただくことも方策の一つと考えます。また、気軽に短時間で行えるなど、新たなボランティアの形も考える必要があります。